

巻 頭 言



千葉県知事 森田 健作

次世代に誇れる魅力あふれる “CHIBA” を目指して

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにおいて、千葉県では、フェンシング、レスリング、テコンドーの3競技が本県の幕張メッセ（千葉市）で実施されることが決まりました。

前回の東京オリンピックの際には、交通網などの社会資本が急速に整備され、戦後の我が国が大きく発展するきっかけとなり、私たち世代は大きなメリットを享受することができました。今回の東京オリンピック・パラリンピックの開催も、将来の世代に「宝」を残すきっかけとしたいと考えています。

そのため、千葉県ではソフト・ハードともに、さまざまな環境整備を進めていきますが、国外からお越しになる大勢のお客様に対し、何よりもあたたかい「おもてなし」の心でお迎えすることが大切だと考えています。

さまざまな国や地域の人々との交流は、本県の国際感覚を高める絶好の機会であり、未来を担う「人づくり」のチャンスでもあります。訪れた方々の心に残るような、明るい挨拶と最高の笑顔でお迎えする「おもてなし」を全県的に展開するとともに、大学や市町村などと連携しながら、国際社会で必要とされるコミュニケーション能力を高めるため、語学ボランティアなどの育成確保にも力を入れて取り組んでまいります。

また、本県が有する日本の空の玄関口である成田国際空港は、年間発着枠の30万回化や第3旅客ターミナルビルの供用開始を契機としたLCCネットワークの更なる拡充、空港から県内外への交通アクセスの充実など、一層の機能強化が進んでいます。

今後、更なる国外からのお客様の来訪が見込まれており、本県では、観光地のトイレの整備・美化、無料公衆無線LANの整備、観光案内版などの多言語表記など施設面の整備を推進し、国外からのお客様に、日本を訪れてよかったと思っただけのよう、受入体制の充実に取り組みます。

そして、このような取り組みを、県内に在住する11万人を超える外国人が、文化的な違いを認め合い、尊重し合いながら、同じ地域社会の構成員として、共に生きていく外国人県民にも暮らしやすい多文化共生社会づくりにもつなげてまいります。

2020年東京オリンピック・パラリンピックは、日本の未来を一層輝かせる絶好の機会となります。この機を捉え、次世代を担う子どもたちに引き継がれる未来への投資を行い、本県そして我が国の更なる成長・発展につなげ、次世代に誇れる魅力あふれる“CHIBA”を作り上げてまいります。